学校番号	118

令和３年度　数学科

教科	数学科	科目	数学Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	新編「数学Ⅱ」　（東京書籍）						
副教材等	アシストセレクト新編数学Ⅱ（東京書籍）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

数学Ⅱでは、１年次での数学Ⅰで学んだ内容の延長である単元が多く、復習と演習が大切になる。家庭学習（宿題等の課題）の時間を確保してしっかりと復習をおこなう。宿題や課題は定期的に提出することになるので、最後までしっかりと取り組む。
・授業では、課題に対して、答えが書かれるのを待つのではなく自ら考え、また周りの人と協働で考える活動をおこなう。また、ノートの活用に視点をあて、毎回の授業の復習がしやすいノート作りの指導をおこなう。
・問題集（アシストセレクト）については、まずは自分で解いてみる。ただ答えを求めるだけでなく、途中式や考え方も書くようにする。また、各自で答え合わせをしてから提出する。答え合わせをすることで、自分がどこでつまずいたかを知ることができる。
・何事も知ることが自分を変えることにつながる。そして、知らないことを学習することが自分の得となるので、積極的に取り組む。

2　学習の到達目標

式と証明、複素数と方程式、図形と方程式及び微分と積分についての基礎的な知識や技能を習得します。また、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにします。さらに、それらを活用する態度を身に付けることを目標とします。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:数学的な見方や考え方	c:数学的な技能	d:知識・理解
観点の趣旨	・多面的にものを見たり，理論性のあるいろいろな考えに触れたり，試行錯誤しながら考え，主体的に数学的な見方や考え方のよさを学ぼうとする。 ・身近な事象を数学化し，積極的に数学を活用しようとする。	・数学的な見方や考え方のよさを認識できる。 ・自らの思考過程を振り返りながらより発展的に考え一般化して問題の本質を探ることができる。	・数学的な見方や考え方を生かし自分から工夫して問題を解決し、判断することができる。 ・設定した数学的な課題を既習事項や公理・定義等を基にして分析・整理し，数学的に考察したことを明確に表現することができる。	・数理的に考察し処理することのよさや既習事項などを体系的に整理し活用できる。 ・構成した数学的知識の意味を考え，見いだした数学的知識をいろいろな場面に活用できる。

評価方法	小テスト 提出物 授業態度 宿題	小テスト 定期テスト	小テスト 定期テスト 宿題	小テスト 定期テスト 宿題
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

４　学習の活動

学期	内容	単　元（題材）	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
1学期	式と証明・複素数と方程式	式と計算	整式の乗法，因数分解				○	a:3 次の乗法公式および因数分解の公式を用いて，式を目的に応じて変形してみようとする。二項定理に関心をもち，具体的な場面に活用してみようとする。整式の除法に関心をもち，商と余りを求める方法を考えてみようとする。分数式の計算に関心をもち，いろいろな分数式の計算をしてみようとする。 b:組合せの考えをもとに，二項定理を導く過程を考察することができる。整数の割り算と整式の除法との共通点に注目し，除法の原理について考察することが　できる。 c:展開式のある項の係数を，二項定理を用いて求めることができる。整式どうしの割り算を行い，商と余りを求めることができる。分数式を約分，通分することができる。 d:3 次の乗法公式及び因数分解の公式の導き方や適用の仕方について理解している。二項定理について理解している。整式の除法の手順や商，余りについて理解している。分数式の約分や四則計算について理解している。	定期試験 小テスト ノート 授業態度 宿題
			二項定理	○	○	○	○		
			整式の除法		○	○	○		
			分数式とその計算			○	○		
		複素数と方程式の解	複素数とその演算	○		○	○	a:数を複素数まで拡張する考え方やその過程に関心をもち、複素数の基本的な性質を調べようとする。 b:数の範囲を複素数まで拡張する必要性と意味を理解できる。解と係数の関係や判別式の意味を理解し、それらを	
			２次方程式の解	○		○	○		

			剰余の定理 因数定理		○		○	具体的事象の考察に活用できる。剰余の定理を導く考え方を理解でき、その考え方を基にして因数定理を導くことが理解できる。 c:虚数の意味を理解し、複素数の計算に習熟している。整式を 1 次式で割ったときの余りを剰余の定理を活用して求めることができる。 d:複素数の意味と演算法則を理解している。複素数の範囲では、代数方程式が常に解をもつことを理解している。 3 次以上の整式の因数分解や高次方程式の解法に因数定理が活用できることを理解している。	
			高次方程式	○	○	○	○		
		式と証明	恒等式	○		○		a:方程式と恒等式の違いについて関心をもち，調べてみようとする。等式の証明方法について関心をもち，いろいろな方法で等式を証明してみようとする。不等式の証明方法について関心をもち，いろいろな方法で不等式を証明してみようと する。 b:等式が恒等式であるための条件を踏まえ，等式を証明する方法を考察することができる。実数どうしの大小関係や実数の平方の性質を踏まえ，不等式を証明する方法を考察することができる。 c:等式が恒等式であるための条件を用いることができる。・等式が恒等式であることを証明することができる。不等式を証明することができる。 d:方程式と恒等式の違いについて理解している。等式が成り立つことを証明する方法について理解している。不等式が成り立つことを証明する方法について理解している	
			等式の証明			○	○		
			不等式の証明	○	○	○	○		

2学期	指数関数・対数関数	指数関数	指数の拡張	○	○	○	○	a:拡張された指数についても指数法則が成り立つことに関心をもち，積極的に活用しようとする。指数関数のグラフに関心をもち，調べてみようとする。 b: ・指数を増減させたときの値の変化の規則性を踏まえ，指数を 0 や負の整数まで拡張する意義を考察することができる。累乗根の性質を踏まえ，指数を有理数まで拡張する意義を考察することができる。グラフの形状から指数関数の性質の特徴を把握し，数の大小比較や方程式・不等式の解法について考察することができる。指数関数を含む関数を，おきかえによって 2 次関数に帰着させ，最大値・最小値を求める方法を考察することができる。 c: 0 や負の整数の指数を含んだ式を計算することができる。・累乗根を含む式を簡単にしたり，累乗根の値を求めたりすることができる。・有理数の指数を含んだ式を計算することができる。指数関数のグラフをかくことができる。指数関数の性質を利用して，数の大小を比較することや，簡単な方程式・不等式を解くことができる。おきかえを利用して，指数関数を含む関数の最大値・最小値を求めることができる。 d: 0 や負の整数の指数の定義，および指数法則が成り立つことについて理解している。累乗根の性質について理解している。有理数の指数の定義や，指数法則が成り立つことについて理解している。指数関数のグラフの特徴や指数関数の性質について理解している。指数関数の性質から，数の大小を比較したり、方程式・不等式を解いたりする方法について理解している。指数関数を含む関数を，おきかえによって 2 次関数に帰着させる方法を理解している。	
			指数関数とそのグラフ	○	○	○	○		

		対数関数	対数の性質	○	○	○	○	a:指数と対数の関係について関心をもち，いろいろな対数の性質を調べてみようとする。対数関数のグラフに関心をもち，調べてみようとする。 b:指数法則の利用によって，対数の性質や底の変換公式を導く過程を考察することができる。対数の意味を踏まえ，指数関数のグラフと対数関数のグラフの位置関係を考察することができる。グラフの形状から対数関数の性質の特徴を把握し，数の大小比較や方程式・不等式の解法について考察することができる。対数関数を含む関数を，おきかえによって2次関数に帰着させ，最大値・最小値を求める方法を考察することができる。常用対数の意味を踏まえ，自然数の桁数を求める方法について考察することができる。 c:指数を用いて表された式と対数を用いて表された式を相互に書き換えることができる。また，対数の定義から，対数の値を求めることができる。対数の性質や底の変換公式を利用して，対数を含む式を計算することができる。対数関数のグラフをかくことができる。対数関数の性質を利用して，数の大小を比較することができる。また，簡単な方程式・不等式を解くことができる。おきかえを利用して，対数関数を含む関数の最大値・最小値を求めることができる。常用対数を利用して，自然数の桁数を求めることができる。 d: 対数の定義について理解している。対数の性質や底の変換公式について理解している。対数関数のグラフの特徴や対数関数の性質について理解している。対数関数の性質から，数の大小を比較したり方程式・不等式を解いたりする方法について理解している。対数関数を含む関数を，おきかえによって2次関数に帰着させる方法を理解している。常用対数の意味について理解している。	
			対数関数とそのグラフ	○	○	○	○		

3学期	微分法・積分法	微分係数と導関数	平均変化率		○	○	○	a: 関数の値の変化について極限を用いて調べる考え方に関心をもち、その考え方を活用して、整関数の値の変化を調べようする。 b: 極限の考え方について、直感的に認識できる。平均変化率、微分係数、導関数の概念を認識できる。微分係数の図形的意味を理解できる。 c: 微分係数と導関数の関係を理解し、接線の方程式を求めことができる。 d: 微分係数の意味を理解し、接線の方程式を求める公式を身に付けている。導関数の意味を理解し、関数の和、差及び実数倍の導関数を求める公式を身に付けている。微分係数の意味を理解し、接線の方程式を求める公式を身に付けている。	定期試験 小テスト ノート 授業態度 宿題
			微分係数とその意味		○	○	○		
			導関数	○	○		○		
			関数の微分		○	○	○		
			接線の方程式	○	○	○	○		
		積分法	不定積分		○	○	○	a: 微分と積分の関係に関心をもち、原始関数を求めようとする。 b: 微分の逆演算として不定積分を導く考え方を理解できる。積分の考えが図形の計量に活用できることを理解できる。 c: 微分と不定積分の関係を用いて、積分の公式を考察できる。定積分と面積の関係を用いて、関数で囲まれた図形の面積について定積分を活用して求めることができる。 d: 関数の和、差、実数倍の不定積分の意味を理解している。関数の和、差、実数倍の定積分の意味を理解している。	
			定積分	○	○	○	○		

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。